

土佐塾 最後まで奮闘

青森北に22-26 スタンドから拍手

全国高校ラグビー

第96回全国高校ラグビーフットボール大会（毎日新聞社）

日本ラグビーフットボール協会（主催）は28日、東大阪花園ラグビー場で1回戦があり、県代表の土佐塾は青森県代表の青森北に22-26で敗れた。18年ぶりの「花園での1勝」には惜しくも手が届かなかったが、最後まであきらめず前を向いて奮闘したファイティーンに、スタンドから温かい声援が響いた。【松原由佳】

土佐塾 200010 210012 反9
TGPB前 210012 反22
TGPB後 100005 3300021
100005 3300021 反26計22
青森北 分、F、B片岡倫選手(3)



【青森北-土佐塾】前半18分、ラックから土佐塾が右に展開し、WTB竹嶋が独走トライ

東大阪花園ラグビー場で、平川義之撮影

年）が「キックミスをしてしまったので、自分で取り返そう」と自ら陣10分ライン付近、S H西田有作選手(3年)からボールを受ける。そのままと走り、「絶対いける」と左中間にトライ。先制すると、土佐塾のスタンドからは大きな歓声が湧き起こった。続いて同18分、

「花園で1勝」届かず

下雅教さん(19)は「最れ」と声を掛け、送り出した。後半も前半と同じように攻めていってほしい」とエールを送った。西村保久監督は選手たちに「このまま全員がんばってや

1年間やり直す

土佐塾・西村保久監督 全体的には良く、このチームでもう少しやりたかった。25分ハーフを逃げ切る力はあ

100%出し切った

土佐塾・新階彩幸主将 自分たちの100%を出し切ることができた。悔いはない。良いゲームができて良かった。後半、止めよう

高校からプレー 達成感も

土佐塾 畠山和哉選手(3年)



だった。しかし、チームメイトにアドバイスももらった。プレーを見ることで、経験の差を埋めるように努力した。「今でもまだまだ学ぶことが多い」と謙虚な姿で話す。青森北戦ではスクラムの際に踏ん張り、押し切られないよう口

「自分の力を出し切れたので達成感がある。悔いはない」。試合後、すがすがしい表情を見せ、「みんながいろいろと教えてくれた。最後の3年生でみんなから今まで習ったことを出し切れた。ありがとう」と言いたい」と振り返った。

卒業後は大学に進学し、クラブチームでラグビーを続けたいと考えている。「1年生でも試合に出られるように頑張っていきたい」と意気込む。【松原由佳】

後半13分に青森北がトライとゴールを決め、17-12と5点差に迫られたが、同15分、NO.8新階彩幸主将(3年)が右中間にトライし、22-12と10点差に差を広げた。同19分、青森北がトライとゴールを決め、22-19に点差を詰める。同27分には22-26と逆転を許した。スタンドからは「まだ時間がある」「いける」と声援が飛んだが、ノースサイド。4点差で惜しくも「花園での1勝」には手が届かなかったが、熱戦を繰り広げた選手たちに大きな拍手が送られた。

紙面編集小槌 大介